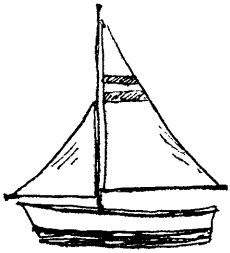


幼児は、ごく小さいうちから、水いたずらを好みます。粘土や砂遊びが、創造性を伸ばすために使用されるように、水遊びをもっと積極的に教育的に利用することはできないものでしょうか。今後の工夫を必要とする遊びです。

水あそび

堀合文子

夏は、あつい、あつい、と汗を流しても、むちゅうに自分たちの遊びに興じている。先生は、汗をふいてやったり、うちわであおいだり、何かと涼をとることに助力している。

それと同時に、幼児の遊びにも涼しさの工夫をすることも、幼児に対して親切な計画ではないだろうか。

一、砂遊び

砂遊びは特に夏に限られたものではないことは勿論だが、夏の砂場は幼児にとってまた、独特の感触がある。体全体の動き、手の感触、創造、すべてそこには言うまでもなく、創造的表現が大小繰り返されている。そして自然の欲求か、活動か、川を堀れば、水を、池を堀れば水を入れてたのしんでいる。ある時はすばらしい芸術が生まれる。夏といわずこのような遊びは繰り返されているが、おとなにとっては何か眉をひそめる遊びだが、大いに水をつかい、そして、ぬれた砂、たまった水、池、川、何でもそこに幼児が表現したらよい。どろんこになって遊ぶこと、これがどんなに尊いことか。これが夏の遊びとして大いに計画され、実行されてよいと思う。

洋服のよごれ、家庭との対面があるならばその対策をこうじればよい。例えば、ビニールのエプロンをかけるとか、家庭に砂場遊びの大切さを話し、エプロンだけよごしてよいとの契約をする。また幼児にも一応、袖があれば、まくってする、人に迷惑のかかることはしない、という約束をしておくなどの注意ははらう。

あついから部屋の中で粘土をやらせる。勿論、結構なことだが、それ以上に砂場あそびは重要で、体全体の現わす、創造の場であろ

う。夏の砂場は、教師も共に遊び、計画の一つとして大きく考慮されてよいことである。

二、ささぶね

古めかしいことばであるが、幼児には今だになつかしいもの。庭の笹をとって〝ささぶね〟を作って水に浮かべる。池、川があれば結構、都会の真ん中では、バケツやたらい、洗面器に水を汲んでそこに浮かべるのもたのしいもの。幼児の創作はここにも生みだされ、ささぶねの競争、親子舟、蟻、虫が船頭さん、と幼児の夢は無限に続く。

〝ささ〟がなければ、画用紙を笹の形に作り、クレヨンを濃くぬりつぶすと水に浮かぶ。これは一つの科学で、幼児がそのぬり方を工夫することは尊いことになろう。勿論、夏のあつい時の製作としてよい材料ともなろう。

〝ささぶね〟ばかりでなく、ヨット、舟なども舟底をクレヨンで濃くぬりつぶすと、同じように水に浮かせて遊べる。幼児はこれをヒントにいろいろと考えてくれるであろう。

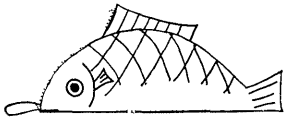
これも作っただけでなく、作ったものは庭の池に、池がなければ洗面器でもバケツでも用意しておき、浮かべて遊ぶ時を是非持ちたい。

三、魚釣り

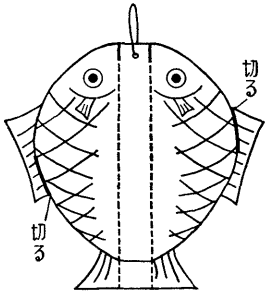
製作ではよく遊ぶ遊びだが、ささぶねのように本当の水に泳がせたら、夏の遊びとしてまたおもしろみはますだろう。

やはり立体感はほしい。糊を使えば、はがれてしまう。で、切り込んではさむようにして裏も表もクレヨンを濃くぬりつぶしてはどうだろう。口には細い針金（荷札についているような細いもの）をつけたら、釣って遊ぶこともできる。

一例　出来上り



製図



水遊びの大好きな幼児期に何か夏の間だけでも満足させてやりたい気持がする。

身近かな目の前の例を改めて考えなおしてみました。